



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.1.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

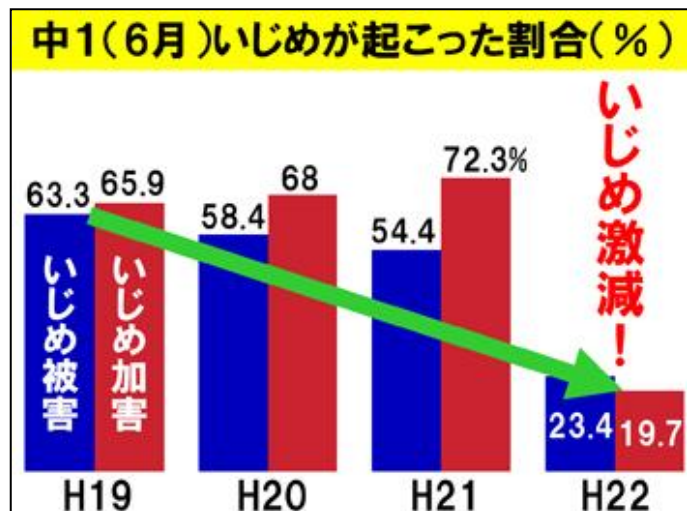
〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

幼児期からのいじめ・不登校対策②

いじめを予防するために幼児教育にできることは何か？

文科省のページには、具体的ないじめ対策に成功した学校の取り組みが掲載されていました。ある荒れた中学校の改善例です。キーワードは「**異年齢活動**」でした。

この中学校は大変荒れた学校で、不登校やいじめなどの問題行動に苦しんできました。しかし下のグラフのように、平成22年の6月のいじめ件数が激減しています。いったい、何があったのでしょうか？



答えは中学校入学前にありました。

中1の最初から問題があるということは、小学校の段階ですでに問題があるはず。そこで、校区にある2つの小学校と連携したのです。

その小学校では、小6と小1の **異年齢活動** を計画的に行いました。給食、清掃、運動会、読み聞かせ、ほかさまざまイベント。すると6年生の行動が変化しました。

平成20年から始まった異年齢活動の試みは3年目に花が咲き、平成22年のいじめ激減につながったのです。

「情けは人のためならず」という言葉があります。他人への情けは、巡り巡って自分に返ってくる、がその意味です。

このことを、まさに幼児教育の現場で検証した実験があります。2014 年に、大阪大学大学院人間科学研究科から発表されました。



Cちゃんのためにボタンをとめてあげた親切なBちゃん。その様子をじっと見ていたAちゃんは、何かとBちゃんに対して親切な行為をしました。これを

社会間接互惠性(ごけいせい)

といいます。

友だちの行動を観察し、その行動を評価する。その上で、親切なものにはより親切にふるまう。これが社会間接互惠性の成立にとって最も重要なルールです。

逆もあります。他者に親切にしない者には親切にしない(もしくは罰を与える)というルールも見られるそうです。

私はこの話を聞いて、カーネギーの言葉を思い出しました。「鉄鋼王」と呼ばれた、アメリカの実業家アンドリュー・カーネギーの自伝には、次のようなことが書いてあります。



「世の中には善良な人を応援したいという気持ちの人たちがおり、そうした人たちは、常に援助する機会をうかがっている」

カーネギー自身が若い頃、人から援助を受け、大富豪となった後は、多額の寄付をし続けました。こうして世の中に「善意」は循環するのでしょう。

相手への親切は実は自分に戻ってくる。こうしたことの積み重ねが将来、どんな影響を与えるのでしょうか？ここに「異年齢クラス編成」の意義があります。



私たちの園では、ちょっとした日常でも、年長が年少のお手伝いをしています。その様子をじっと見る子ども。こうしたサイクルがお部屋の中に生まれます。異年齢クラス編成は、夏見台幼稚園・保育園の大きな特徴です。

「かわいげ」のある子どもがいます。運のいい子どもといってもいいでしょう。たとえばクラスでいじめられても、誰かが見ていて「やめなよ！」といってくれ

る。そんな子どもです。

心を育むための環境づくりを通じて、遠い将来、「かわいげ」のある社会人、人から助けを得られる人になっていく、その土台作りができないだろうか。私はそんな期待を持っています。

社会人としての「かわいげ」。それがだんだん歳をとってくると「人望」になるのでしょうか。

計算づくの人助けではちょっと嫌ですが、子どもたちの純粋な助け合いの日常を見るにつけ、私の心は豊かになります。

地域にガキ大将がいなくなり、一人っ子も増えました。さまざまな年齢が入り混じった集団で遊ぶことで、子どもたちは多くの体験をしました。大人からいわれてやるのではなく、自分たちがルールを作り、役割をこなす。そこで責任感や自主性、小さな子ども(弱きもの)への思いやりを学びました。当然、けんかもあります。しかしけんかを乗り越えることで「仲直りする力」も身につきます。

大阪大学の研究をニュースで知り、夏見台の取り組みは間違っていなかった、と私は思いました。こうした研究は全国の学校に周知されています。最近では異年齢活動を行う小学校も増えているようです。幼児教育の現場にも、どんどん異年齢活動が広まればいいと願います。

(終)